

京都グレインシステム株式会社

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2021 年11月1日～ 2022 年10月31日)



作成日： 2023年6月12日
更新日： 2023年8月10日



— 目 次 —

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	1
組織の概要	2
環境経営組織図	3
責任及び権限一覧	4
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価・環境活動	6
環境関連法規等の遵守状況の確認	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

ご挨拶

京都グレインシステム株式会社は創業以来、経営理念「健康と感動を食生活へ」のもと、事業活動に取り組んできました。飲料事業から食品事業へ拡大し、“市場にないものが欲しい”というお客様の難しいニーズにも応えてきました。

□環境経営方針

環境経営方針

当社は、環境にやさしい食品製造業を目指し、行動指針のひとつである「もったいない」の精神を育てよう（歩留まり・不良加工・工程のムダ・省力化の改善）を基に、SDGsの推進・環境保全の推進・維持に取り組めます。また、法令を守り環境の事を考えた商品の購入（グリーン購入）に努めます。

<必ず取り組む行動>

- 省エネルギー化
- エネルギー使用量管理、見える化
- 井水・排水量及び水質管理、再利用化
- 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- 廃棄物の削減、リサイクル化
- 法令遵守とグリーン購入の推進

2018年11月1日制定

2021年11月1日改定

京都グレインシステム株式会社
代表取締役 田宮 尚一

□組織の概要

会社概要

当社の概要は次の通りである。

社 名 京都グレインシステム株式会社

資本金 5,000 万円

従業員数 100 名（2022年11月現在）

所在地

本 社 〒600-8233

京都市下京区油小路通木津屋橋下ル北不動堂町480番地

資生堂京都ビル

TEL：075-353-8833 FAX：075-353-8837

奈良工場 〒632-0111

奈良県奈良市小倉町1224

TEL：0743-84-0396 FAX：0743-84-0397

石川工場/北陸フードデザイン工房 〒920-0020

石川県河北郡津幡町字湖東311-2

TEL：076-289-7794 FAX：076-289-7796

長浜工場 〒529-0304

滋賀県長浜市小谷丁野町赤谷2373

TEL：0749-60-0000 FAX：0749-60-0001

旭川工場/旭川フードデザイン研究所 〒078-1273

北海道旭川市東旭川町米原517-3

TEL:0166-76-3000 FAX:0166-76-3001

事業内容

農産物の製造加工及び受託加工

- ・飲料原料事業（玄米茶、麦茶、穀物茶 他）
- ・食品原料事業（発芽玄米、きな粉、雑穀パフ 他）
- ・健康食品原料及び生薬原料の刻み加工事業（原料加工）
- ・海外輸出入事業（中国茶 他）

対象範囲 本社・奈良工場

対象活動 全活動

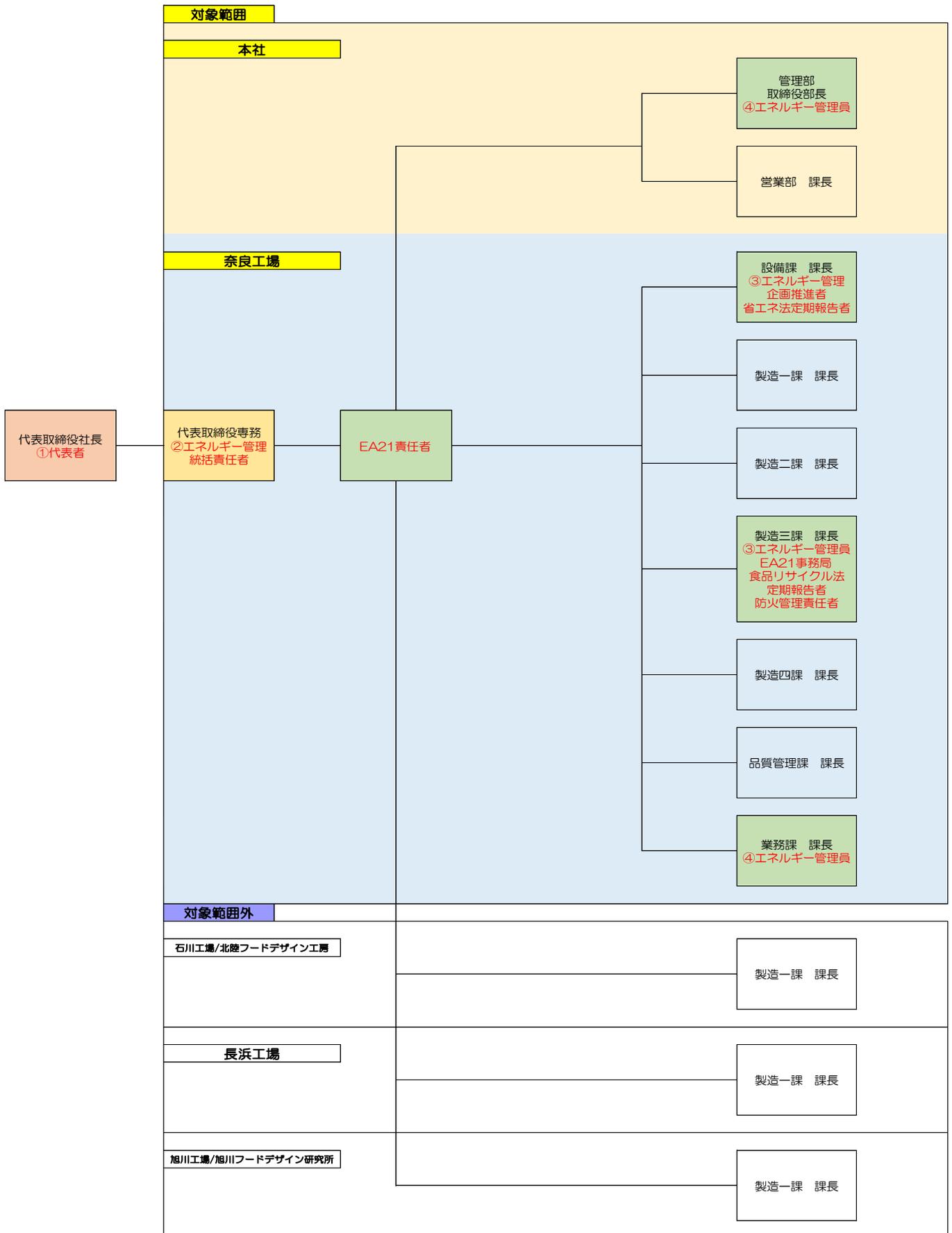
対象範囲外 長浜工場、旭川工場/旭川フードデザイン研究所は、4年以内の認証を目指します。

石川工場/北陸フードデザイン工房は、将来計画が定まった段階での認証を目指します。



	本社	奈良工場	石川工場/ 北陸フードデザイン工 房	長浜工場	旭川工場/ 旭川フードデザイン 研究所
従業員	10人	73人	1人	7人	9人
面積 敷地・床	71㎡ (床)	8089㎡ (敷地)	600㎡ (敷地)	5173㎡ (敷地)	2260㎡ (敷地)
売上比率	—	90%	—	10%	—
	対象範囲		将来計画が定まった 段階での認証を目指す	4年以内の認証を目指す	

□環境経営組織図



責任及び権限一覧表

様式番号	文書	①代表者 (EA21・省エネ法)	②エネルギー管理統括責任者(省エネ法)	③EA21責任者 /エネルギー管理企画推進者(省エネ法)	④EA21事務局 /エネルギー管理員(省エネ法)	⑤部門長 ⑥省エネチーム
(1-1)	認証・登録の適用範囲					
(2-1)	課題とチャンス整理書	実施	-	作成・報告	作成・報告	周知・実施
3-1	環境経営方針	実施	承認・報告	作成・報告	周知	周知・実施
(4-1)	環境負荷「外」集計表	-	-	作成	作成・報告	作成補助
(4-2)	環境への負荷の自己チェック表	-	-	作成	作成・報告	-
(4-3)	環境への取組の自己チェック表	-	-	作成	作成・報告	-
5-1	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	(13-2)	-	承認・作成・報告	作成・報告	-
6-1	環境経営目標一覧表	承認	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
6-2	環境経営計画(実績評価表)	承認(13-1)	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
7-1	実施体制図 役割・権限・責任表	承認・実施	作成・承認・報告	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
(8-1)	教育訓練計画と記録	承認	承認	承認・確認	-	作成
(9-1)	環境コミュニケーション記録	(13-1)	-	承認・確認	作成・報告	作成補助
10-1	運用手順書	-	-	承認・確認	作成・報告	周知・実施
(11-1)	緊急事態準備対応手順	-	-	作成・確認	作成・報告	作成補助
(11-2)	緊急事態訓練記録	承認	-	確認・報告	作成・報告	周知・実施 作成(防火管理責任者)
(12-1)	環境関連文書・記録一覧表	承認	-	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
(13-1)	問題の是正・予防処置報告書	承認	-	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
(13-2)	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	承認	-	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
14-1	代表者による全体評価と見直し記録	実施	-	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
-	環境活動レポート	承認	-	作成・確認・報告	作成・報告	作成補助
省エネ法	定期報告書	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成・報告	周知
省エネ法	エネルギーを消費する設備の新設・改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	エネルギーの使用の合理化に関する設備の維持及び新設・改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	中長期計画	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成・報告	周知・実施

環境経営目標及びその実績

EA21責任者	作成者
大淵	影本

様式 6-1

環境経営目標一覧表

目標策定日：2019年11月1日

環境目標		実績売上高千円 (税込)	基準年度(2018年度)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
			取組サイト	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (kWh/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	
		奈良工場	541	535	530	525	519	514	508	503	
	電気二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		0	0	0	0	0	0	0	0	
	燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	
		奈良工場	291	289	286	283	280	277	274	271	
	燃料(LPG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		874	866	857	848	839	831	822	813	
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		874	866	857	848	839	831	822	813	
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		2,584,778	2,558,930	2,533,082	2,507,234	2,481,387	2,455,539	2,429,691	2,403,843	
	京都本社 ガソリン使用量 (ℓ/売上百万円)		対基準年度削減% (2019年11月～2020年10月)				1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		ガソリン (2.32kg-CO2/L)	3.54	実使用量調査中	基準年度	3.51	3.47	3.44	3.40	3.40	
		軽油 (2.58kg-CO2/L)	0.40	実使用量調査中	基準年度	0.39	0.39	0.38	0.38	0.38	
		京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		9.25	実使用量調査中	基準年度	9.15	9.06	8.97	8.88	8.88
京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		29,717.95	実使用量調査中	基準年度	29,421	29,124	28,826	28,826	28,826		
産業廃棄物の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0		
	奈良工場	30.2	29.9	29.6	29.3	29.0	28.7	28.4	28.1		
食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持		基準年度(2018年度)%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%		
	奈良工場	95.3%	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持		
水使用量の削減	地下水使用量の削減 (m ³ /売上百万円)	奈良工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	6.0	
		使用量	6.4	6.4	6.2	6.1	5.8	5.5	5.2	4.9	
グリーン購入の推進	環境負荷低減商品の使用	全社	使用商品のG商品使用率	基準年度値維持			基準年度+5%				
	事務用品・車両・照明器具		70%	70%以上	70%以上	70%以上	75%以上	75%以上	75%以上	75%以上	
製品及びサービスに係る環境 配慮	容器包装の適正化		過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	

※電力のCO2排出係数は株式会社エネットのメニューAの為、「0」となる。

※本社は4事業者と共用のため、電気、水、廃棄物量は目標設定しない。

※奈良工場の車両燃料、事業系一般廃棄物は僅少のため、目標設定はしない。

※化学物質を使用していない。

□環境経営計画の取組結果とその評価・環境活動

様式6-2 環境経営計画／実績表

期間

2022年度(2021年11月～2022年10月)

環境目標	環境活動	月別の計画／実績		5: ほぼ 100% 取り組みができた 4: 75% 程度の取り組みができた 3: 50% 程度の取り組みができた 2: ほとんど取り組みなかった 1: 全く取り組みなかった
		評価基準/集計	数値評価	
電力使用量の削減 (kWh/売上百万円) CO2排出係数「0」 基準年比 4 %減	不要照明の消灯の継続	4	4	場内の照明器具をほぼLED化へ変更実施。基準年度比較で、生産量及び売上げが増加し、原単位では、9%削減となった。生産効率向上の結果となった。今後も引き続き節電への意識を高め、高効率の装置・部品導入を検討し推進する。
	空調の温度管理の継続 暖房時: 22℃ 冷房時: 26℃ OA機器等の省エネ設定および 不使用時の電源オフ	3	4	
	電気使用機器の省エネの検討	4	4	
	電力使用量の削減 計画 k g/売上百万円	519.21		
	電力使用量の削減 実績 k g/売上百万円	472.34	○ 91%	
燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円) 基準年比 4 %減	燃焼設備 空気比の調査と適正化	3	3	乾燥・焙煎機のバーナー用エネルギー使用に対して、暖機時間の見直しや炎のバランス調整、長時間製造などを実施。また製造量も増加傾向で良い結果となった。原単位では、1%削減となった。
	機器の暖機及び運転時間の短縮	3	3	
	—			
	—			
	燃料(LPG)使用量の削減 計画 k g/売上百万円	279.77		
	燃料(LPG)使用量の削減 実績 k g/売上百万円	276.72	○ 99%	
奈良工場CO2合計 kg-CO2/売上百万円	奈良工場CO2合計 計画 kg-CO2/売上百万円	839.30		○ 99%
	奈良工場CO2合計 実績 kg-CO2/売上百万円	830.16		
奈良工場kg-CO2合計	奈良工場CO2総量 計画 kg-CO2	2481386.69		× 134%
	奈良工場CO2総量 実績 kg-CO2	3333119.37		
京都本社 ガソリン使用量 (ℓ/売上百万円)	公共交通機関の利用	3	3	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。コロナの影響にて、公共交通機関より社用車の使用は増えたが、リモートワークを取入れる体制に成り、削減となった。
ガソリン (ℓ) 排出係数 2.32	本社ガソリン	計画	3.47	
		実績	2.93	
軽油 (ℓ) 排出係数 2.58	本社軽油	計画	0.39	
		実績	0.33	
2 %減				
京都本社CO2合計 kg-CO2/売上百万円	京都本社CO2合計 計画 kg-CO2/売上百万円	8.88		○ 84%
京都本社CO2合計 実績 kg-CO2/売上百万円	7.50			
京都本社kg-CO2合計	京都本社kg-CO2合計 計画 kg-CO2	29123.59		× 106%
	京都本社kg-CO2合計 実績 kg-CO2	30732.47		
全社kg-CO2総量	全社kg-CO2総量 計画 kg-CO2	2510510.28		× 120%
	全社kg-CO2総量 実績 kg-CO2	3363851.84		
産業廃棄物の削減 (kg /売上百万円) 基準年比 4 %減	再利用化の推進	3	3	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。基準年度より、製造量が1.5倍の増加と成り、扱う原料並びに、包装資材の処理量も増加となった。今後の荷受け資材に関しては、出来限り廃棄処理の必要ではないモノへの変更ができるかの検討を進めていきたい。
	—			
	—			
	計画	29		
食品廃棄物再生利用実施率の向上維持 基準年実施率以上維持	食品廃棄物再生利用実施率向上	3	3	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。今後も、ロス量軽減に努めると共に有価物の新たな再利用化を模索していく。
	—	0		
	計画	95%		
99%	実績	99%	○ 96%	
水削減 水使用量の削減 (m/売上百万円) 基準年比 4 %減	節水	4	4	以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。給排水の管理を徹底すると共に製造ラインや機械の洗浄等で使用している水の節水を実施している。
	計画	6.17		
	実績	4.16	○ 67%	
環境活動の推進	グリーン購入の推進	継続中	-	事務用品は、概ね実施は出来ている。機械装置に関しても、使用電力やエネルギー量を考慮し、導入が出来ている。
	容器包装の適正化	過剰使用禁止	-	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・食品廃棄物の発生量:562.496 t ・再生利用の実施量:558.386 t ・処分の実施量:4.11 t 			

口環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法令についての違反、訴訟等はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

法律名	適用設備及び活動	記録その他	評価
大気汚染防止法	乾燥機	ばい煙発生施設設置届出書	○
		ばい煙測定報告書	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排水口	特定施設設置届出書	○
		水質分析	
		50m ³ 以下/日	
騒音規制法	コンプレッサー・送風機・穀物用製粉機	騒音規制法特定施設届出届	○
	敷地境界騒音レベル	騒音測定 記録	○
振動規制法	コンプレッサ	コンプレッサ仕様一覧表	○
	敷地境界線上 振動レベル	振動測定 記録	○
自動車NO _x ・PM法	ダンプ（普通）	自動車検査証	○
浄化槽法	合併浄化槽	届出書	○
		浄化槽保守点検記録表	
廃棄物処理法	産業廃棄物	委託契約書	○
		許可証	
		マニフェスト	
		報告書	
食品リサイクル法	奈良工場	定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	特定容器利用事業者	指定法人引き渡し	○
省エネ法	灯油、ガソリン、軽油	—	○
	その他エネルギー	—	
	使用設備	—	
	全社	定期報告書の提出	
フロン排出抑制法	7.5kW以上50kW未満のエアコン	定期点検表	○
消防法（危険物）	少量危険物貯蔵設備 9800屋外タンク	少量危険物貯蔵取扱届出書	○
		甲種防火管理講習修了証	
水銀汚染防止法	蛍光灯・水銀灯の廃棄時	マニフェスト	○
悪臭防止法	焙煎設備	臭気強度	○
	敷地境界線レベル		
	工場・機械排出口		

□その他活動

5月20日茶摘み参加風景

今年で第5回目を迎える新茶の茶摘み体験に参加した。
この取り組みが始まったのは5年前に過疎化が進んだ町を以前のように活気溢れ、自然豊かな環境を取り戻そうと毎年この季節に茶摘みが行われるようになった。社会環境の変化等により、急速に自然が消滅し環境が悪化していく中で、社会環境の変化等により、このような取り組みが、日々の暮らしの中で当たり前の様になっていけば、CO2削減が実現できると考えます。

手間暇をかけて出来上がったお茶は凄く香りがよく、苦み・渋みが少なく美味しく頂きました。因みに、100kgのお茶の葉っぱから出来上がる製品は20kgだそうです。



□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日 2023年6月6日

環境経営方針の見直し有無	無し
環境経営目標・計画の見直し有無	無し
実施体制、その他見直しの有無	無し

<総括>

「もったいないの精神を育てよう」の行動指針に基づいて、創業以来食品ロスの再利用に積極的に取り組んできました。これは、戦後の食料不足から食料の価値を深く感じており、廃棄される食品残渣の再利用が使命だと考えています。また、将来的には世界的な人口増加による食料難が深刻化しているため、食品ロスから食べられる物を創造し続けたいと思っています。

昨年から長浜工場の建設を進めており、本格稼働まであと少しです。長浜工場では主に麦の焙煎を行うための特化した工場として設計されており、基本的に原料麦は現地で調達しています。長浜工場で発生する食料残渣を堆肥化し、現地の農場で再利用する循環型の取り組みも検討しています。サプライチェーン全体を巻き込んだ取り組みを計画しています。

エネルギーの使用に関しては、新しい設備や取り組みを模索しています。食品のリサイクルにおいて問題となる滅菌については、過熱水蒸気を使用する機械を導入し、新たな製品開発に取り組んでいます。また、化石燃料から非化石燃料への転換については、太陽光発電の導入を検討しています。ただし、太陽光パネルの廃棄時の環境負荷については懸念がある為、最新の廃棄方法やクリーン化の進展に関する情報を収集しています。生産加工の特性上、化石燃料にまだまだ依存しており、これからの技術革新や水素ガスなどの普及から新たな生産方法の確立、新エネルギーの代替に課題をもって取り組み続けます。